

2023年度事業報告

2024年 3 月 31 日

公益財団法人 日本セーリング連盟

2023年度事業報告

公益財団法人 日本セーリング連盟

経費委員会 委員長 池田 浩之

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	定期表彰	インクルーシブな取り組みを含むセーリング活動の表彰実施	顕著な活動の認知度向上	表彰式の開催	2024年1月	Green	
f	ガバンスコード対応	経理・基準の継続的見直し	JSAFの運営、実施体制のルールに関する整備	ガバンスコード、経理、基準等	通年	Green	
	レース等行事の公認・後援検討	JSAF公認・後援レースの検討実施(レースマネジメント委員会と共同)	公認・後援レースへの保険付保等、安全確保	公認・後援レースの開催	通年	Green	
h	コンプライアンス研修	委員、特に各団体リーダー向けの研修実施	委員全体のコンプライアンス意識向上	研修の開催	2024年2月	Green	

財政委員会 委員長 松田 一樹

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h.i	1. 適切な支出、立替手続きの進行	・各専門委員会から日々上がってくる支出、発注の申請の内部処理。 ・本部職と協力して支出、会計経費等に関する事務手続きの効率化と改善。 ・各専任職からの相談、指示された経費の全額引当についての相談を継続。	公益財団法人に期待されるコントロールシープの維持・向上	各専任課長室における指摘ゼロ	通年	Green	通常の支払手続きについては滞りなく支払チェックを実施。 特に内部からの指摘はほぼ無くなり、委託契約手続等に関連した不適切事象と手続対応のため、関連経理・プロセスの見直しと各委員会向け説明会を1月に開催済み。
	2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	・事務局のほか関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に際し、評議会・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。 ・年間方針や重点施策に基づき各委員会が推進する事業計画の遂行に応じた円滑な予算執行に努める。 ・見込の収支状況についての情報提供を促進。	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評議会・理事会向け報告	通年	Green	予算実績管理についてITシステムの見直しもあり実施率は進捗。 上記の説明会に併せて会計制度策に関する説明も実施。
	3. 健全な財政基盤の確保	・JSAFとしての経営戦略に基づき、食費・寄付金・賛助金等の収入ソース拡大の検討がなされる中、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面でその管理体制の整備を進める。	公益財団法人に期待されるコントロールシープの維持・向上	管理ツール整備	通年	Green	各委員会の事業の進捗・来年度の計画に關してアランを実施。JSAFとしてのお金の流れの把握を促進。 事業の進捗状況のモニタリングのため報告ツールは年初より改訂。
	4. 会計経理業務のガバナンス強化	・事務局に於ける経理会計業務の体制強化を支援し、情報提供の整備を推進させる。 ・公益財団法人に期待される会計・経理態勢の確固に努め、堅実運営を行う。	公益財団法人に期待されるコントロールシープの維持・向上	試算表、マニュアル等の整備	通年	Yellow	試算表整備や会計入力の事務局内での引継ぎも念めた体制の強化と安定化は、継続課題。
	5. 消費税・インボイス制度への移行に伴い、JSAFとしての対応を事務局と協力のうえ進捗のうえ、適時に準備を行う。		税制変更への適切な対応	取引先ごとの手続受入	2023年9月中旬	Green	制度導入にあたり今年のことろ大きなトラブルなし。契約手続関連経理・プロセスの見直しに伴い、支払申請書フォームを改訂・運用開始済。

業務開発委員会 委員長 下坂 隆

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
d	JSAF SHOPの運営業務	JSAF SHOPの日常業務に対する報酬の支払い化	ボランティアの帰を越えた日常業務の担い手を有償化することにより確保し、人材確保を済ます。	業務を担う人材確保の可否	年間	Green	4月より西村由希さんと業務委託契約を結ぶことにより、委員の負担無く安注、発送、在庫管理業務ができた。尚、橋田さんが3月をもって委員を退任するため2名程度の委員増員が必要。
	JSAF SHOP販売商品の拡充	魅力ある新商品の開発		年間売上目標 ¥3,500,000	年間	Yellow	下記以降に新規投入した商品の売れ行きが伸び悩み、2023年度実績は約 ¥2,300,000にとどまった。 在庫商品の販売率と魅力的な新商品の開発が望まれる。
	企業とのコラボ製品の制作	45RPM社以外の新規コラボ企画の開発	確実に利益の見込まれる提携企画開発により、安定した利益を確保する。	新規契約企業1社を目標とする。	年間	Yellow	新規提携企業の獲得はなかった。

広報委員会 委員長 森 尚規

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

環境委員会 委員長 大塚 俊樹

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
b	サステナビリティキャンペーン(金日本大会へのサステナビリティ補助金事業)	金日本大会へのサステナビリティ補助金事業	・サステナビリティ活動の促進 ・SNS等での発信による外部への訴求 ・スポンサー企業との連携継続および新規スポンサー企業との関係	・SNSの掲載数(シェア数、いいね数合計2,000件)	通年	Green	・SNS発信を要件化・管理できず実績が低迷。 SDGs貢献アプリの要件化と合わせて促進。 ・要後付見直しを開始。
	サステナビリティキャンペーン(上記以外への補助金事業)	サステナビリティに関する個人・団体の取組(学びや意識、行動変容、共創に向けたトリアル支援)への補助金事業	・サステナビリティの意識、行動変容に向けた。他団体へのナレッジになるような取組を支援・発信するために、トリアル事業を支援	・助成数5件	通年	Red	23年度は募集できず実績がなかったため、年度当初から公募して実施する
	サステナビリティイベント企画、参加	サステナビリティに関するイベント等での展示・講演	・海洋環境の現状の把握 ・サステナビリティの意識の普及、向上 ・広くセーラー以外の一般市民も巻き込みサステナビリティを切り口にセーリングの普及にも寄与。	・参加数5件	通年	Green	ブルーオーシャン・インシアティブに加えてポータルショーでの展示を実施
	サステナビリティ啓蒙ツールの拡充	加盟団体等で活用できるように啓蒙ツールの整備、共有	・サステナビリティ活動の普及、支援、活性化	・加盟団体活用数30件(普及指導委員会事業と連携)	通年	Green	・海のプラスチックリサイクルをこまごま団体、若洲、RSで実施。 ・活用状況をアンケート・実施予定。
	使い古したセールの有効活用(Workshop、バッグ製作販売)	使い古したセールによるエコバック制作Workshop	・環境意識の向上 ・販売促進に寄与 ・JSAFのブランド化 ・広く一般市民への普及	・ワークショップ実施数5件	通年	Green	・ワークショップ実施4件 (オリンピックウィーク、かごしま団体、RS協会、東山ヨットクラブ)
	サステナビリティインパクトに関する調査・検証	セーラー個人、大会のサステナビリティ貢献(プラスチック、CO2削減)の調査・検証(外部機関連携含む)	・サステナビリティ貢献の評価、可視化 ・サステナビリティ活動の促進	・評価方式の策定 ・大会のインパクト評価トライアル	通年	Green	・SDGsアプリを470、スタジアム、RS、SSの4大会で実施 ・4大会レビュー・インパクト試案
	ナレッジの蓄積・展開	加盟団体のアンケートによる現状・課題分析、先進事例調査・展開	・サステナビリティへの加盟団体等の取組の普及・定着	・事例収集・発信数30件	通年	Green	アンケート実施(セーリング商品リサイクルについて)
	サステナビリティ活動の情報発信	加盟団体の取り組み事例に関する映像制作・発信	・サステナビリティ活動の促進 ・スポンサーへの訴求・獲得	・映像ビュー1,000PV	通年	Green	業務委託の仕様書作成済、次年度経営企画調査予算で実施
	アクティベーション協働先の発掘事業	アクティベーション協働先の調査・交渉	・スポンサーへの訴求・獲得 ・アクティベーションメニューの開発	・アクティベーションメニュー開発1件	通年	Green	コンサル契約を経営企画調査で実施
	スポンサー向け商品開発事業	サステナビリティに関するスポンサーメリットの開発	・スポンサーへの訴求・獲得	・スポンサーメリットの開発1件	通年	Green	

レディース委員会 委員長 長瀬 尚希子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
f	チャイルドルーム	E.O.Wチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数 20名	2023年6月	Green	利用者も多く、大いに役割を果たした。
	チャイルドルーム	豊津園スポチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数 13名	2023年9月	Yellow	事前の告知不足の感があった。告知を早めに行う。
	チャイルドルーム	鹿児島特別団体チャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数 38名	2023年10月	Green	利用者も多く、大いに役割を果たした。
a.c.d.e	WSステアリングザコース	ハンダ体験会	普及推進、女性参画支援	参加者数 22名	2023年5月	Yellow	バクセーターとの交流も図りたい
	WSステアリングザコース	e-sailing体験会を実施	普及推進	国内大会や上級大会にも参加し活躍	2023年5月	Green	学連にも紹介し、広がりがつある
d.f	主理用品配布	女性が参加する大会で生用品を配布し、自分の身体への正しい知識や健康への意識を啓発する	女性支援	配布人数 367名	2023年8月～11月	Green	配布をきっかけにチャイルドルームや委員会の事業に興味を持ってもらうことができた。
a.d.f	情報交換会	広く会員やヨット関係者を惹き、それぞれが抱える課題を共有しその解決につながる情報の意見交換	女性セーラーを取り巻くセーリング環境の向上インクルーシブなセーリングへの取り組みの促進	会場参加者数 22名 リモート参加者 30名	2024年1月実施予定	Green	配布活動とも関連づけ、環境向上への発信の重要性についての意識を高められた。
h.j	女性リーダー研修	「女性リーダー・コネクトアゲンシー研修会」に委員が参加	次代への継承に向けた組織体制強化、人材育成	他委員への情報の共有	2023年9月	Yellow	情報共有の場があまりなかった。
a.d.f	WSステアリングザコース	レースマネージメントクリニックを開催	次代へのフォーアゲンシー育成、女性参画支援	参加者数	2023年11月	Green	大盛況で、同様の会定期的な開催を望む声も多かった。
d.e	マッチングシステム構築	加盟団体、特別加盟団体とのネットワーク作り	卒業する学生が継続してセーリングを続けるための県連や船種別協会とのマッチング	15団体17名の登録あり	通年	Yellow	外部団体とのネットワークは拡がりつつあるが、学生の声を扱い上げるシステムが不十分といえる。

アスリート委員会 委員長 岡 一人

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	国際機関ボスト獲得・国際会議派遣	・World Sailingのミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を送速する ・ASAF（アジアセーリング連盟）の年次総会及び臨時総会に委員等を送速する	・会議派遣を通してセーリング競技に関する情報収集および情報発信 ・World Sailingにおける日本のプレゼンスの向上	・委員の派遣 ・WSの年次会議等における議題の把握 ・上記議題に関するJISAFその他国内のテークホルダーのポジション確認・生成・発信	2023年11、12月	Green	WSのニューアルファランファンには、2023年の年次総会にWS内のCouncilやCommitteeに計7名、ASAFには2名の委員の派遣を通じて、情報の収集、および派遣内での所有を行った。2024年WSの各委員の任期が到来するため、今後もWSASAF内で貢献、プレッセンの維持が重要と見られる。委員の配置が開始。
e	スポーツ外交	外務省SFT等を活用しコーチ派遣またはコーチ、選手の招聘	・セーリング競技の普及および普及活動を通しての関係構築	・助成金獲得 ・コーチ派遣または選手・コーチの招聘の覚悟		Red	オリンピック終了以降、予算縮小され派遣が難しくなっていることもあり、2023年は外務省プログラムの助成金の獲得がなかった。

国際・学術委員会 委員長

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
k・p	アンチドーピング啓発派遣事業	アンチドーピング講習会開催（国体セーリング競技会）	アンチドーピング教育をユースからシニアまで幅広い層の選手、コーチ等サポートスタッフと共有すること	参加選手438人、サポートスタッフ150人	2023年10月	Green	目標は達成できている。引き続き啓蒙活動をわかりやすく行う
		アンチドーピング講習会開催（全日本プロフェイトス級セーリング選手権大会）	アンチドーピング教育と意識をジュニア、ユースの選手、コーチ、保護者等サポートスタッフと共有すること	参加選手82人、サポートスタッフ80人	2023年11月	Green	
		江の島オリンピックワークへのNF-Rep派遣		参加選手426人、サポートスタッフ200人	2023年6月	Green	
k	アンチドーピング啓発派遣事業 ドーピング検査事業	470全日本選手権へのNF-Rep派遣	競技会場へアンチドーピング(AD)の瞭解基を提示し、AD意識向上を図る。 ドーピング検査時にNF-Repを派遣し、競技者の権利を守るために立ちうとともに検査の円滑な実施に協力した。	参加選手164人、サポートスタッフ70人	2023年9月	Green	目標は達成できている。引き続き啓蒙活動をわかりやすく行う 検査事業も協力していく
		ILCA6/7 All Japan ChampionshipsへのNF-Rep派遣		参加選手112人、サポートスタッフ50人	2023年11月	Green	

国際スポーツ大会委員会 委員長 黒川 貴博

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	国民体育大会開催事業	・中央競技委員の派遣 ・関係官民団体との調整・協議 ・参加船、運営艇の安全対策の推進 ―一般の認知・関心の向上に向けた「見える団体・見える団体」推進 ・開催地でのセーリングスポーツの普及推進	・円滑な団体運営への開催地支援 ―一般市民等への認知度の向上 ・開催地におけるセーリング競技の普及	参加選手、監督等 550人 中央競技役員派遣 30人	2023年10月	Green	参加船 331艇 参加選手、監督等 545人 選手への競技役員派遣 30人 リハーサル大会への競技役員派遣 25人 課題 2024年WSA470クラスとアジアセーリング大会との1日競となる、セーリング競技も、一般観客に対してより見えやすい、「より分かりやすくアピールすることが必要である。また、よりDVDを効果的に活用する。
d・e・f	国民スポーツ大会開催準備支援事業	・円滑な大会運営を目的とした団体委員会開催 ・開催自治体及び関係官民との調整・協議・指導 ・国・県開催予定地の中央競技団体正統継承及び指導・助言 ・国・県開催予定地の中央競技団体正統継承への支援 ・開催予定地の行政・セーリング関係者による関係研修会の開催	・円滑な国・県開催準備への開催地支援 ・国・県開催予定地の中央競技団体正統継承及び指導 ・国・県開催予定地に向けた大会委員の確保	団体委員会開催 2回 国・県研修会 1回 中央競技団体正統継承 1回	2023年4月～ 2024年3月	Green	国・県委員会開催 2回（2023.6.18、2024.4.18） 国・県研修会 1回（2024.1.28） 中央競技団体正統継承 1回（2024.3.18） 国・県開催自治体及び関係官民との調整・協議を年間を通じて適宜実施 国・県開催委員会との調整・協議を年間を通じて適宜実施 国・県開催委員会や正統継承等を通じて国民スポーツ大会開催を積極的に支援し、円滑な大会運営が可能となるよう、国・県大会委員の体制を強化することが必要である。
	国民スポーツ大会開催関連事業	セールに貼付する旗幟・旗番の販売取組	・「見える団体」、「見える国」の推進		2023年3月～ 9月	Red	旗番販売 125枚 旗名販売 123枚 課題 セールへの旗名表示は、一般観客もわかりやすいセーリング競技とするために必要不可欠であると判断しているが、広告規定との関係を整理する必要がある。

オリンピック強化委員会 委員長 宮本 貴文

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	強化対象選手NT、NT-A シニア強化選手への 海外大会派遣	NT-ANTを中心とする強化対象選手の海外主要大会(Sailing World Championships, アジア大会、Paris2024サマースイート等)への派遣	Paris2024での入賞、1項目以上のメダル獲得	各大会の成績、遠征報告書 大会報告日 録の通り	全年度日程	Green	Sailing World Championships：470クラス優勝、3位獲得 アジア大会：470クラス優勝、FXクラス2位、Nacraクラス3位獲得
j/m	強化対象選手NT/NT-Aに特定強化強化 会合の実施	NT-ANTの各チームが抱える課題にフォーカスしたチーム特化型の強化会合を実施	Paris2024での入賞、1項目以上のメダル獲得	各大会の成績、会合レポート	別紙のとおり	Green	NT-Aチーム(470回田、吉岡組)についてはセーリングクラブを招集しての個別会合やPT担当者の大会前等ミーティングに実施しており、Sailing World Championshipsでは優勝を勝ち取った。
	強化対象選手に対するクラス別強化会合の実施	強化対象選手を対象とした、クラス別の強化会合を実施	NT/シニア強化選手の知見をHOPE育成選手にインプットする	会合レポート	別紙のとおり	Green	NT-A選手が在籍する470、470FLクラスについては適宜HOPE選手とタイアップした個別会合を実施中、そのほかクラスについては日程等の関係で実施していないため、今後オリンピックキャンプ等を通じてクラスを自由に接触していきたい。
k/m	HOPE育成プログラムの計画・実施	HOPE選手を対象とした、セーリングスキル及び人間力の向上を目的としたHOPE育成プログラムを実施	次世代有力選手の継続的な輩出。LA028を見据えSailing Youth World/Jr. Worldでの金メダル獲得を目標とする	各大会の成績、会合レポート	1週間～10日程	Green	全てのHOPE育成プログラムについて順調に実行中であり、2024年については選手の実績に即してプログラムの大幅な改定を実施した。2024年の第4期生として新たに8名を投入した。
	強化対象選手HOPE選手への海外大会派遣	HOPE選手の海外主要大会(Sailing Youth World/Jr. World等)への派遣	次世代有力選手の継続的な輩出。LA028を見据えSailing Youth World/Jr. Worldでの金メダル獲得を目標とする	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	Green	全ての大会について対象のHOPE選手及びコーチの派遣を滞り無く実施した。2023年には代表選考大会でHOPE選手が補助対象選手から落選するケースも見られたため、選考大会でHOPE選手がしっかりと代表権を獲得できるようにターゲットの選定と強化計画の見直しを実施中。
	海外主要大会進出に向けたサポートチームビルディング	ルール、栄養、トレーナー等のサポートメンバーを退出しチームを結成、複数の海外主要大会に派遣して公開の抽選、フィードバックを実施。メンバーについては公開を実施する	Paris2024本大会を見据えたTeam JAPANの構築	遠征報告書	公報は4月中旬	Green	テストイベントにおいてルール、フジカ、栄養、修養のスタッフを帯同し、本大会に向けた各種テストを実施し、良好な結果をもたらすことを見据えている。
	NTC・各強化拠点との連携強化	HOPE育成プログラムを始め、各種強化会合の実施において、NTC及び各強化拠点との連携を深める	各自治体の補助金等を活用した各拠点の機材等の充実、各地域における競技普及・認知度向上への貢献、及び各地域の人材活用	会合レポート、各種報告書等	随時	Green	場において以前のHOPE育成プログラムを3回実施し、地元スタッフの費用・協力も増えながら滞り無くHOPE育成プログラムを実施した。地元高校とのタイアップ等の地域連携も試行的に実施。今後は機材等の充実に向け連携を強化していく。NTC、鹿間、江の島についても引き続き連携をしながらより強化環境の構築と、地域関係者の強化について継続的取組みを実施中。

ジュニアユースアカデミー委員会 委員長 中村 公俊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
a・f		ナキストの発行	・海外セーリングへの関心喚起の拡大 ・生涯スポーツとしての価値を高める	・対象者への配布数	通年	Green	当初計画の通り、事業開催地の選手・指導者・関係者に渡れなく配布 単金15回5025人
f,h	ジュニアユースセーリング・ シーマンシップアカデミー	アカデミーコーチ研修の開催	・人材の育成及び有効活用	・コーチ派遣に耐えうる登録者数を確保	通年	Green	・10名の指導者を確保 ・次年度に向けては新コーチを募集
d,f,j		アカデミーコーチの派遣	・練習ノウハウの共有 ・生涯スポーツとしての価値を高める ・各地域指導者の技術力向上 ・参加者の技術力向上 ・参加者の意欲喚起	・全国13府15市に延べ20名のコーチを派遣 ・各地域指導者の技術力向上 ・参加者の技術力向上 ・参加者の意欲喚起	2023年6月～ 2024年3月	Green	・当初の予定通り、全国13府15市（新規4府）に延べ20名のコーチを派遣 ・積極的に未実施地にアプローチして事業を拡大

セーリングボーイズ委員会 委員長

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	大学対抗全日本U23ユースアカデミーの開催支援	大学対抗全日本U23ユースアカデミー2024開催に向けた支援活動の推進	ユース世代のセーリング競技者の裾野拡大	参加選手約60名、参加ボランティアスタッフ12名	2024年3月	Green	12チームが参加し、大会が円滑に開催された。設備支援を継続する。
e	国際ユースアカデミーの選手派遣	国際ユースアカデミー2024開催に向けた支援活動の推進	ユース世代のセーリング競技者の裾野拡大	参加選手約60名、参加ボランティアスタッフ12名	2024年3月	Green	JISAF代表チームを派遣し、出場選手50名50名の派遣を継続する。
e	国際ユースアカデミーの選手派遣	国際ユースアカデミー2024開催に向けた支援活動の推進	ユース世代のセーリング競技者の裾野拡大	参加選手約60名、参加ボランティアスタッフ12名	2024年3月	Green	新年度の大学対抗全日本U23ユースアカデミーの出場選手を不足していたが、スケジュールの都合で変更となった。
e	セーリングボーイズアカデミーの開催支援	地域とユースアカデミーの開催支援	ユース世代のセーリング競技者の裾野拡大	参加選手約60名、参加ボランティアスタッフ12名	2024年3月	Green	セーリングボーイズアカデミーは順調に実施されているが、次年度は変更する。

国民大会選手権委員会 委員長 中村 公俊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
d・e・f	各種委員会活動支援	オリンピック・パラリンピック強化準備委員会の活動支援・普及にむけた各種委員会の活動・関係者との連携	セーリング競技（リハーサル・セーリング）の強化・普及（広報を通じたプレゼンテーション、関係者の連携強化）の推進	関係者の連携	通年	Green	特定委員の活動を行った。
e・f・g	国際大会運営支援	国際大会（江の島オリンピックワーク及び470アジア・オセアニア選手権）の開催支援と運営委員会マネジメント	国際関係構築と参加選手及び観客の増加、ひいてはセーリングの強化と普及	助成金申請の実施	通年	Red	2023年実施のEWについては助成金申請を事務で済ませたが収入見込の甘さ等から赤字決算となった。2024年実施のEWについては助成金申請作業は事前に完了したが、実行委員会との間で競技の選手数の確定までに至ることができなかった。2024年実施の470アジア・オセアニア選手権については、助成金申請は完了したものの、1Wあたり11万円の不足があるという課題に直面していることに気づいており、結果として申請を取りおろし、日本470協会に多大な負担がもたらされた。
h・e・g	ENEOS事業	トローン・マナーを活用したJISAFセーリング・シリーズ（インタークラブ・ランド・コンペティション・ラン・P）の実施、JISAF Club, Class of the yearの実施	インタークラブ・マナーを活用したJISAFセーリング・シリーズ（インタークラブ・ランド・コンペティション・ラン・P）の実施、JISAF Club, Class of the yearの実施	トローン・マナー導入、セーリング・シリーズの実施、表彰の実施	通年	Green	当初計画を3回以上トローン・マナーが導入された。クラブや団体の数は多数の応募を得て、組織的な意識の向上に貢献した。

外洋競技委員会 委員長 中村 公俊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
a,d,e,j	セーリングクラブ普及拡大事業	外洋船のセーリングクラブの活用を促し、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する。	セーリングクラブ取得数	通年	Green	2023年度 2022年度 増△減 会員 7 4 3 7 6 4 △2 1 非会員 4 3 2 7 1 6 合計 7 8 6 7 9 1 △5 会員の高齢化に伴う離脱等による減を非会員の増でカバーしている状況である。
		セーリングクラブ普及拡大にむけ、各地のヨットクラブや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する。	全国各地でのセーリングの安全、ルール遵守の強化をはかる	開催実績	無し	Red	担当委員の調整で2024年度実施にずれ込んだ
		2022プリズン五輪を目指し世界選手権に選手を送速する。（国内選考・関係機関と連携を密に）	2022五輪を踏まえ選手の育成強化	派遣実績	無し	Yellow	世界選手権は開催されなかったため、派遣実績は無し 外洋ダブルス日本選手権2023125月開催
e,h,o	オファシアレス支援と世界選手権派遣事業	JISAF主催、共同主催の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	World Sailingの2022プリズン五輪外洋レースで活躍できる選手を育成していく	外洋ダブルス日本選手権2023年2月3開催 小笠原レース2023年3月開催（世界標準を目指しカテゴリー2で開催）	Green	Green	全日本レベル3（外洋ダブルス、小笠原レース、バルレース）、各地のダブルハンドレース、レースでのダブルハンド・クラスは増加傾向
		オファシアレスのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信機器などの整備、促進、実施を進める。	世界レベルの選手育成のためのスキル向上	全日本からダブルハンド・クラスまでのダブルハンドレース開催	10月2日 2月1日	Green	サバイバルトレーニングは関東開催を始めたため、資格を取りやすくなった
		外洋加盟団体長会議を年2回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	9月30日開催 1月28日東京	Green	
a,h	加盟団体・特別加盟団体等との関係強化事業	外洋常任委員会を開催する。（年1回程度） 外洋船の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会を開催する。	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績 会議実績	6回開催 2月3日福岡	Green	
		ヨットクラブ、泊地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連携・連携の強化を図る	連携実績	Green	Green	各ヨットクラブ等へ体験乗船の法的定員の資料を配布 各場会長のヨットクラブ回りに協力、各地のクラブへ連絡等
		外洋船の安全確保、安全情報の交換	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	Green	Green	各ヨットクラブ等へライフジャケットおよび体験乗船の法的定員の資料を配布 各場会長のヨットクラブ回りに協力、各地のクラブへ連絡等
i	外洋船の安全確保、事故対応、法制度の適 化の推進	ヨットに合わせた法制度の改善を関係官庁・関係機関に要望する	船舶安全、免許取得、通報等ヨットに合った改善するための活動	活動実績	Green	Green	体験乗船についての船舶定員制度上の確認と海上保安庁への指導依頼 外洋ダブルス日本選手権、小笠原レース等で安全確保を行った 民間救助協団BAN加盟の推進を図った
		サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績	Green	Green	サバイバルトレーニング3回 メディカルトレーニング4回 サバイバルトレーニングは関東（東京・ヴィーナス）開催を始めたため、資格を取りやすくなった
e	海洋環境保全普及事業	万が一のための主催者保険加入 海客の安全確保とコンプライアンスの海洋環境保全、普及促進を進める	レース主催の安全確保 海洋環境の状況を踏まえその保全、状況を子供連や市民に啓発していく	活動実績	Green	Green	主催者保険13団体加入 小笠原文島・母島で海洋環境保全を実施

外洋競技委員会 委員長 中村 公俊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
f	計測セミナー	計測セミナーの開催	メジャーの養成、計測技術の確立・継承	(2023年度は開催なし、ルール変更の伝達)	2024年2月	Green	ルール変更通知（7.3.12）
e	外洋合同会議	外洋合同会議の共同開催	レーシングの規則の周知と運用の標準化	合同委員会での報告の参加	2024年2月	Green	合同委員会参加・説明（74.2）
e	計測機材の管理維持	重量計の活用管理、重量計のキャリブレーション	重量計の活用管理、重量計のキャリブレーション	キャリブレーションの実施1回/年	通年	Green	計測の実施
a,h	外洋計測委員会との関係強化事業	外洋計測委員会との関係強化	計測技術の向上、計測技術の普及	会議録、各通知文	通年	Green	会議録・通知文を随時作成
	関連文書作成	レーシングの規則の解説、国内の料金費作成	国内での運用の基礎を整える	規則の日本語版、2024年料金表	2023年12月	Green	規則日本語版の作成、料金表の改定（為替等を考慮）
o	証書申込交付・発行	証書発行要求の管理、証書・請求書の発行	公式レーシングによるレース実施の支援	証書発行枚数RC350枚、CRC50枚	通年	Yellow	RC258枚 CRC52枚、RCが目標を下回る

TCチェック	TCメンバーによる申告書のチェック・確認作業	証書記載内容の適正化	TCチェック（新規・変更）65件	適年	Green	新規・更新のTCチェック件数61件,ほぼ予定の件数
国際会議への参加	コンGRESへの参加者の派遣	規則の年次更新への対応・意見具申	会請報告書	2023年10月	Green	IRCコンGRES参加（2023/10/4リ）

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	委員会会議	委員会運営および以下事業の実施に関する議論と方針・行動の策定を行う	OSRへの理解、安全規則の普及促進 事故防止、安全航行に対する意識の向上	議事録	通年	Green	
	ホームページの維持・管理	ホームページにCOSR改訂や安全週間およびその他の随時随事事項を掲載し、維持・管理する		ホームページ	通年	Green	HP、SNSの定期的な更新を実施
h	1. OSR日本語翻訳版の発行と国内規定制定	・日本語翻訳版の発行 ・国内規定策定	OSRへの理解、安全規則の普及促進	OSR日本語翻訳版	1月・2月	Green	24年の改訂に伴い、翻訳・製本データ作成の外部委託が必要となり、第2次補正予算案に反映
i	2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施および講師派遣		受講者数	2月 要請に応じ	Green	24年2月に博多にて実施、参加
g	3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説	DX、OSRアクセス簡易化、利用者負担軽減	SNSフォロー数	通年	Green	HP、SNSの定期的な更新を実施
	4.OSRのアプリ化検討	OSR販売のアプリ化を検討、アンケート等で利用者ニーズの把握を図る		OSRアプリ購入希望者数	～9月	Green	アプリ作成は費用対効果を検討し見送り決定
i	1.安全週間	安全週間を春と秋の2回/年設け、忘れがちな船整備や乗員の訓練等の実施を呼びかける	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	4月、10月	Green	3月と9月に実施
	2.安全講習会への講師派遣	加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師を派遣		受講者数	要請に応じ	Green	24年2月に博多にて実施予定、旅費交通費を第2次補正予算に反映
	3.安全航行に関する諸法令の改正のための関	国内未認可の設備品や無船機器などを日本国内でも使用できるように働きかける	セーラーの安全性の向上や活動費用の低減			Green	実施なし
	4.「全国海難防止強調運動」の実行委員	日本海難防止協会を主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員を務める				Green	事務手続き対応
h	5.事故報告書	外洋船間の事故数や事故の内容を集計・分析、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめ、	船舶安全航行に関する情報収集および発信			Green	2023年は4件
	外洋合同委員会会議	外洋レースの運営・計画・安全に関する規則のポイントや改定案等の解説・共有・議論を合同会議				Green	24年2月に博多にて実施、参加
h	外洋団体委員会	外洋レースの運営・計画・安全に関する規則のポイントや改定案等の解説・共有・議論を合同会議	外洋レースの全国均一化とレース主催者（加盟団体）のスキル向上	参加者数	2月 9月	Green	23年9月に直前に実施、参加

通商委員会 委員長 宮口 誠治

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
g,h,i,o	海警局維持事業	既存のJSAF海警局の運用、収支状況の調査を行い、今後の海警局のあり方の提言を策定	海警局の現状を把握し、無線機材の更新の必要性など、今後数年間の運営方針を策定	現状報告書および運営方針計画	通年	Green	みさきヨット、おおしヨットおよび九州2局のヒアリングを実施後現状をまとめ、運営方針の策定準備を進める
		WiF無線局免許更新時の海警局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手続を改善	無線局免許更新時の海警局加入証更新の促進	海警局加入証更新実績の比率向上	通年	Green	関東総合通信局と現状の手の確認を実施、来年度に向けて変更を行っていただきたい点についての要望をまとめ、再度討議を行い、その後九州総合通信局との討議を行う
g,o	オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースの通信環境の整備と支援	世界レベルの外洋レースを使用する通信環境の知見の獲得	開催実績	通年	Green	シドニーカーボットレースなどの海外レースで使用された機材、運用方法を収集、国内で使用可能なものを整理してご紹介する準備を行う
		JSAF共同主催の外洋レースのレストランキング環境の整備と支援	世界レベルの外洋レースを使用するレストランキング環境の知見の獲得		通年	Green	
i,o	外洋船の安全確保、事故対策、法制度の適化の推進	外洋船の安全確保、フレジャーポート系の無線局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の啓蒙	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	活動実績	通年	Green	日本マリナ無線協会が関与する広域連携ネットワーク海警局とのそのような連携が可能なか、討議中
		ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望	通信環境をヨットに合うよう改善するための課題		通年	Green	関東総合通信局と現状を確認、来年度、要望書を整理を進める
		海上通信環境の最新情報の取得	メーカーや無線関係団体との関係を確認し、無線環境の進化に対応する準備を行う		通年	Green	国内メーカー3社からの機材の貸し出しを受け、実際の外洋レースで使用し関係構築を行った

アジアスカップ委員会 委員長 橋本 展

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

ジャパンカップ委員会 委員長 藤原 好孝

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

パシフィックカップ委員会 委員長 高岡 健行

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
c,n	インクルーシブセーリング Facebookページ拡充	既存インクルーシブセーリングFacebookページのリンク先の情報を充実させる	障がい者セーリングの国内外への認知を一層の拡大	アクセス数3割増+4,000回/年	2023/4/1	Yellow	大会、選手活動の情報発信ができて成果があった。
	障がい者セーリング推進委員会 ホームページ開設	障がい者セーリング推進委員会ホームページを新報障がい者セーリング推進委員会ホームページを新報に作成し公開する	障がい者セーリングの認知および情報集約	アクセス数 1,800回/年	2023/4/1	Green	HPを利用しての認知、情報集約の効果が少ないと判断し作成をしたが公開を見送った
f,n	WS主催のPOPへの選手、コーチ派遣	国際大会と同時に開催されるPOPへの参加	選手の技量向上、コーチングの上達	選手2人、コーチ1人派遣	10/23-10/29	Green	PDPの内容がDPIに変更により委員会メンバー2名と加盟団体会員（応募者）1名が参加、インクルーシブセーリング選抜についての策定が必要
c,d,e,n	JSAF会館の全日本選手権、地方大会等開催	東日本大会、西日本大会、全日本大会の実施	地域において、広く（参加者を募集し、スポーツの普及や競技技術の向上のため）に開催する事業	平均参加出場者30人/大会、観覧者数100人/大会	6/10、8/29-27、9/23-23	Green	東西大会は参加選手各15人、両大会観客は30人程度、全日本は参加選手62人/大会、観客数は150人/程度、大会を通じ参加者数、来場者数は予定どおりで有り大会は成功を収めた。
f,n	クラフティアの育成	国際大会で行われる国際クラフティア研修への参加	国際クラフティアの育成	研修への派遣者2人	8月	Green	派遣者は1名、IC資格を取得
c,n,i	視覚障害者セーリング体験会実施	視覚障がい者を中心にインクルーシブセーリングの実施	視覚障がい者の社会参加	体験参加者10人/回	未定(4回)	Yellow	委員会としての取り組みが出来ず加盟団体で開催を行いボーダーの養成が委員会にあった。
e,n	障がい者セーラーの強化	強化項目の指定し強化を行う	国際大会での順位向上をはかる。	参加者10人/回	未定(4回)	Green	平級スキルアップ講座を開催、講座の次年度以降の継続の要望があった。
n	国際大会への選手派遣	国際大会への選手派遣	選手の技量向上とモチベーションアップ	選手3人派遣	8月	Green	パワードルに選手を1人に派遣、ハンザ2035で銀メダルを獲得
e,f,i,n	障がい者セーリングにおける指導者の養成	障がい者セーラーを指導する立場の指導者を集め、トップコーチ及び障がい者指導員から座学と実技を指導する	障がい者の内容に応じ、セーリング技術指導、コンディショニング等のサポート	参加人数 15人/回	12月(2回)	Green	初めての企画であるが参加人数も20人を超え参加者より次年度以降も開催の要望が多くあった。
d,e	インクルーシブセーリングの普及活動	障がい者セーリング体験会を開催	障がい者セーリングの普及	全道3ヶ所(参加人数30人/回)	8月-11月(6回)	Green	予定していた開催回数は超え、普及に関し成果があったが、開催地により障がい者の参加人数のばらつきがあり、会場のパワーフリー化が必要と感じた。
n	障がい者セーリングにおける強化推進	日本バラスポーツ協会・JPC加盟分館会	選手の強化		4月	Red	予算が取れず実行できなかった。

第 3 回の委員会 第2回選抜クレーンプロジェクト推進委員会 委員長 加山 雄三

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

eSailing委員会 委員長 原野 俊子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
a,c,e	ポートショー（PR・普及事業）	ポートショー・JSAFブース出展に合わせたイベント参加	eSailingヨットレースの紹介、体験	1日50名体験、オンライン1回参加20名	2024年3月	Red	2024年はオリンピック開催を契機予定でeSailingブースは開催しない旨の連絡があり、eSailing委員会自身の対応は無し。
	Steering the Course（PR・普及事業）	Steering the Course期間にVR紹介と体験会	壁がけ続けられる環境の紹介	参加者50名	2023年5月	Green	Steering the Course期間中の5/23に体験会を実施、体験会後東京交差点から参加対象を後援大学生女子部員、OGの他、男子学生やOBも参加、セーリング経験者で壁かけセーリングから離れてた方がeSailingを初めて体験し、数分でコブを掴み再挑戦しレースを楽しみながら、意欲が次第で増えた。
e	eSailing講習会・体験会（PR・普及事業）	eSailing講習会・体験会を通じeSailing活用方法の紹介	指導方法ツールとしての紹介	参加者50名		Green	メール講習会で活用済、体験会実施。
a,c,e	オープンエントリー練習会（PR・普及事業）	オープンエントリー練習会（週1回 2000～3レース）開催	定期的な日本のプライベートレースの場の提供	1R:最大18エントリー者×3	通年	Green	初めての人やレースに参加してみたい人、よ、女性、身体の状況問わずセーリング体験を実施し、6～8歳～とまでして 2000 からのオープンエントリー練習会（土曜）2000オープン 2003スタート22015オープン2018スタート220308オープン2033スタートと時間を決め開催。各シリーズのeSailing/ガッタの合同に、意欲者、希望、ウォーミングアップ、クールダウンの活用、ミニコンペティションなどとして活用できるような取り組み、アマチュアチームの選手も参加し、離れない参加に積極的にオンラインでポイントを取られてた方がeSailingを初めて体験し、数分でコブを掴み再挑戦しレースを楽しみながら、意欲が次第で増えた。
e	J-大会の開催（PR・普及事業）	J-大会の開催 高校生以下の大会開催	eSailingの大会参加方法等ツール紹介と競技力向上	参加者50名	2024年1月	Red	2023年2月にJ-大会初開催、(1月予定を試験、実験など考慮) 2024年開催は目標日の練習会やJRC主催のチームレース練習会、大会に包括、サイン(カレ、図標、図標等)とJRC主催の大会を含め、若手の大会が予定している。
o	全日本（Japan cap）開催・運営（普及・強化事業）	全日本（Japan cap）開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2023年9月	Green	8/19.20と全日本開催、eSailing全日本で2023年は高校生チャンピオンが誕生、他のJ-大会全日本大会日程変更などで開催日程が変なキャンセル者もあり、当日参加者20名。
	ネーションズカップ支援	ネーションズカップ支援、選手の活況配信、紹介によるPRとネーションズカップにNIとしての役割（普及・強化事業）	世界大会での活躍紹介と活動支援	ベスト 8 以上を目指す	2023年10月	Green	HP、SNSで状況を紹介、+8月シンガポールでのオリンピック・eスポーツシリーズ決勝に選手2名出場、+11月タイランドeSailing世界選手権決勝に選手3名出場、+eSailingアジア杯決勝。
E	eSailing大会運営スキル拡大（普及・次世代への引継ぎ）	運営人員増員・運営スキル拡大、継承	レースセット、リザルト（SAILRANKS）、オンライン会場（Discordサーバー）での運営について、レースに参加しながら各ポジション運営者を体験（実況）し新規運営人員拡大を図る	運営実施	通年	Green	全日本大会、選抜のオープンエントリーレースの運営で運営経験、他関係委員会と連携した運営体制構築も視野に入れた運営スキルUPに努める。